2014年7月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第450号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

沖縄から本を作り売る意味を考える

エイサーを沖縄を愛する皆様に、広く永く愛される1冊になって欲しい。

文・我那覇 祥子

名刺交換の際、ジグゼコミュニケーションズという社名を目にした相手は「本当に出版社ですか？」と必ず聞いてくる。

まず、そんな会社の話を少しだけ。

18年前、父が大きな広告代理店を退職した。山積みの書類に溢れた和室12畳間で、新しく広告代理店を立ち上げる準備をしていた。明日からのごはんが気になる幼い私は父に「さつまいもが主食になるの？」と素直に聞いた。父はただただ笑っていた。

ペーパークラフト事業からスタート

新しく立ち上げた会社は広告代理店。出版社ではない。15年前、ペーパークラフト事業がスタートする。沖縄の歴史文化遺産にちなんだ、今までにあるようでないものだった。

時を重ね、企業の名入れや広告のツールとして認知される一方、商品ラインナップは増え地元に、観光で沖縄を訪れる方々に愛されるようになっていく。

2年前の2012年、会社は1冊の本を出版する、「学んで作るペーパークラフト　沖縄の希少生物」。レッドデータブックに掲載されている沖縄に生息する希少生物12種類のペーパークラフトと図鑑とがセットになった、今までにあるようでなかった本だった。

ペーパークラフト制作のノウハウを活かしたクラフト事業の集大成だった、そしてそれは、出版という新しい事業への挑戦でもあった。

AB判（210×257）／厚さ：1.5cm／
販売価格：2,538円（税込み）
発行：ジグゼコミュニケーションズ
http://www.gxe-c.com/

ただ、出版社でもない、出版流通の術を持たないいち広告代理店が本を出版した。県内書店に卸すだけで一苦労しているのを黙って見ていた。

沖縄の本にまつわる話

私の話と沖縄の本にまつわる話を少しだけ。

幼いころから本が好きで本に関わる仕事をしたいと自然に思っていた。大学では司書資格を取得するため各講義を受講し、夜は本屋でアルバイト。昼と夜、それぞれの視点から本に触れ、学び、考えた。

大学を卒業し地元書店に就職。直接の担当ではなかったが、沖縄の書店には「郷土書担当」といういち担当ジャンルがある。沖縄県内の出版社が発行する書籍は「県産本」というひとつのジャンルとして認識されている。

見慣れていたはずの書店の風景の中に身を置いてみると、県産本の多さに改めて驚く。出版社の数はもちろん、コーナーの広さ、次々に納品される新刊の数、手に取るお客様の多さ、身近過ぎて見えなかった県産本の世界。

書店を退職後、公立小学校の図書館司書として勤務する。本と子どもたちに囲まれた毎日を過ごす。

沖縄県内の図書館には日本十進分類法とは別に、県産本に問わず沖縄関連書籍を「郷土本」として収集保存するため沖縄県郷土資料分類表というものが用いられている。

独自の歴史文化を持つ沖縄はその歴史文化、想いを書き残し形にまとめる傾向と想いが他県に比べ強いように感じる。他県に比べ地元出版社が多く、県産本というひとつのジャンルが独立している点、図書館の役割と沖縄県郷土資料分類表もまた、沖縄の特異な歴史文化背景を踏まえると頷ける様に感じた。

小学校図書室にも、当然、郷土本コーナーが設けられている。子どもたちでも分りやすいように、背ラベルの色も一般図書と分けて整理されている。

読み聞かせの際には、沖縄の民話を必ず読むように心がけた。きっと、わたしも心のどこかで歴史を伝える役割を感じていたのだ。ましてや本はその

役目を持っている。

しかけ絵本制作の試み

本に触れてきた後、父の会社を手伝うことになった。入社したその年に動き出した事業があった。しかけ絵本の制作だ。

「ペーパークラフトで得た制作ノウハウをしかけ絵本に活かしたい。」

社長の長年の夢だった。

しかけ絵本と聞いて、大半の方がまず思い浮かぶのは大日本絵画より出版されブームとなったロバート・サブダ氏の手掛けた、しかけ絵本だろう。読み手はサブダ氏と同レベルのクオリティを求めるのか。持っているノウハウでどこまでのクオリティを提供できるのか。

ただ、しかけが飛び出して終わりではない、絵本なのだ。『沖縄の希少生物』を制作した時とは違う。いままでのものづくりとは違うのだ。

また、沖縄県産本でしかけ絵本を制作・出版した版元は見たことがない。県産本で、県内での製本、はたしてそれが可能なのか。

ゼロからの出発だった。沖縄の歴史文化遺産をテーマにペーパークラフトを制作販売してきた会社にとって、絵本のテーマを絞るのは早かった。沖縄の旧盆に行われる伝統芸能、エイサーを題材にすることとなった。

沖縄のテーマにした題材なら尚更、心構えが変わるのを感じた。県産本を出版する人々と同じで、きっと私も沖縄に対する想いが深いのだ。

制作期間約1年、ものづくりの産みの苦労は割愛させて頂くとして、1年は長い様で短かった。なんとか形になった、沖縄生まれのとびだすしかけ絵本『エイサーだいこでちむどんどん』。短い物語のなかにしかけ部分を3ヶ所も入れた。めくり扉を開くと、標準語・英語・うちなーぐち方言の3つの言葉で読めるしかけも取り入れたトライリンガル絵本だ。正直、欲張りすぎた。県産本で、はじめてのしかけ絵本だった。

沖縄を知るきっかけになる1冊に

本が書店に並ぶ、本が書店の景色を作っている。お客様が手に取っている、ありがとうと伝えたくなる。県外でも売りたい、こんな本があることを知ってほしい。

本が発売して以降、沖縄から本を作り売る意味を考えるようになった。きっと、地方で本を作り売る人が通る悩みなんだろう。このもやもやを言葉に出来るのか、行動に移せるのか、自分が試されているのと同じ様に地方が試されているように感じている。

ただ、今、言葉に文章に表すことができることは、この本が沖縄県内で県外で、はたまた海外で活躍する沖縄県人の皆様に、そして、エイサーを沖縄を愛する皆様に、広く永く愛される1冊になって欲しい。そして、沖縄を知るきっかけになる1冊となって欲しい。

書き出していて感じたことは、やっぱり私も沖縄を愛し、想いを本に託しているようだ。そんな想いを形に出来る様に、伝えることが出来る様に、沖縄から出版を続けたいと思っている。

＊

（がなはしょうこ／有限会社ジグゼコミュニケーションズ営業企画）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『デジタル環境下における出版ビジネスと図書館　ードキュメント「立命館大学文学部湯浅ゼミ」』●湯浅俊彦編著

デジタル・ネットワーク社会における電子出版ビジネスと図書館のあり方を多面的、重層的に分析し、これからの出版コンテンツの利活用の可能性と課題を探求すること目的に、2013年度に立命館大学で開講されたテーマリサーチ型ゼミナールの1年間の実践記録である。指導に当たった湯浅俊彦教授は、電子出版は単なる電子書籍化の問題ではなく、知識基盤社会としての出版メディアの変容としてとらえることが重要と指摘する。図書館と授業の連携モデル実験、業界や先進的大学、国立国会図書館調査などに基づいてディスカッションを重ね、学生の視点で新たな大学教育、電子出版、電子図書館の可能性を考察した点が新鮮である。

◆2592円・A5判・254頁・**出版メディアパル**・千葉・2014/4刊・ISBN978-4-902251-78-4

『田中正造とその周辺』●赤上　剛著

田中正造（1841-1913）は、栃木の足尾銅山から流失する鉱毒事件に直面し、銅山の操業停止を訴えて奔走したことで知られる。正造はわが国公害反対運動の先駆けとして、近年ますます義人・偉人化されてきたが、それは違うと本書はいう。著者は正造の生涯とその周辺を徹底して調べ上げ、人間田中正造のありのままの姿を浮かび上がらせる。正造は名誉欲も強く、様々な欠点もあり、失敗も多い普通の人であったという。しかし、公害事件から逃げずず、投獄されること五回、くじけずに真正面からぶつかり試行錯誤しながらも、死ぬまで成長し続けたという。期せずして明治の時代の政治、経済、実業の実態がみられるのも本書のもう一つの魅力である。

◆2700円・A5判・447頁・**随想舎**・栃木・2014/4刊・ISBN978-4-88748-291-3

『写真集　島の美容室』●福岡耕造著

沖縄に「ユンタクはダンパチャーで」（おしゃべりは、散髪屋で）ということわざがあるが、人口400人ほどの渡名喜（となき）島では、まさにその光景が繰り広げられる。何年も美容室がなかったその島に毎月茨城から美容師がやって来て十日間だけ美容室を開く。カメラマンの著者は沖縄の離島を紹介する仕事で渡名喜島を訪れ、食堂のおばちゃんの洒落た髪型をほめたことがきっかけで美容室の存在を知った。美容師の福田さんは今ではすっかり馴染んで、心待ちにされる存在になった。そんな島の人々や子供達、風景や日常が生き生きと切り取られ、人々の満足そうな笑顔が弾けるユニークな題材の写真集。散髪を通した人間同士の触れ合いが描かれている。

◆1944円・A5判・87頁・**ボーダーインク**・沖縄・

『奥州藤原氏の謎』●中江克己著

平泉を中心に、奥州に独立した地位を築きあげた藤原氏。しかしそれまで奥州は、支配下に置こうとする朝廷や、そこから利益を得ようとする者たちの介入により戦乱が続いていた。時の権力者にとって、強大な兵力は脅威であった半面、それを支える黄金や良馬をはじめとする物産は魅力的なものだったからである。そんな中、藤原清衡から始まる奥州藤原氏は、豊かな国力を背景に中央とのパイプも活用し独立性を保っていった。最後は源頼朝の前に敗れたが、奥州に空前の繁栄をもたらした四代百二十年。その歴史を本書は辿る。政治史のみならず、文化や交易といった面についてもコンパクトにまとめられている。

◆1620円・四六判・260頁・**歴史春秋社**・福島・2014/4刊・ISBN978-4-89757-824-8

『上越夜行　ー寝台特急「あけぼの」』●千葉博信著

青森を前日の午後6時すぎに出た寝台特急あけぼのは、秋田・酒田・新津と闇の中を走る。上越国境のトンネルを抜け、利根川に沿って関東平野へ向かう頃、ようやく空が白み出す。この写真集はちょうどその夜明けの光の中を走るあけぼのの姿を中心にまとめられています。冬には一面を覆う雪の白、すべてを染める朝焼けの赤、木々や田畑に溢れる緑、時にはまだ明けぬ漆黒の闇夜を走る姿も、そしてなによりブルートレインの青。画面に焼き付けられた風景は写真でも十分に私たちを惹きつけます。今年3月、あけぼのは定期運行が廃止されました。これは今や見ることの難しい、夜行列車の貴重な記録でもあります。

◆1728円・206mm×206mm判・95頁・**上毛新聞社**・群馬・20143刊・ISBN978-4-86352-100-1

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2014年5月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**ゆきのまち通信**　152　企画集団ぷりずむ編　A5　50頁　500円　企画集団ぷりずむ［青森］　978-4-503-20204-8　14/05

◆**会津人群像**　No.26　阿部　隆一編　B5　101頁　1296円　歴史春秋社［福島］　978-4-89757-825-5　14/04

◆**GREEN REPORT**　413　廣瀬　仁編　A4　192頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-905457-45-9　14/05

◆**くらしと教育をつなぐ　We**　No.190　稲邑　恭子編　中村　泰子編　A5　80頁　864円　フェミックス［神奈川］　978-4-903579-57-3　14/06

◆**オルタ**　452　田中　滋編　B5　17頁　324円　アジア太平洋資料センター［東京］　978-4-503-20224-6　14/05

◆**Be!**　115号　No.138　今成　知美編　A5　110頁　864円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］　978-4-901030-91-5　14/06

◆**仏事**　No.164　清水　祐孝編　A4　96頁　1620円　鎌倉新書［東京］　978-4-503-20222-2　14/05

◆**仏事**　No.165　清水　祐孝編　A4　96頁　1620円　鎌倉新書［東京］　978-4-503-20235-2

売行良好書

期間：2014年5月16日～6月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『動物園のなにげない一日』864円・創風社出版　(2)『日光パーフェクトガイド　改訂新版』1620円・下野新聞社　(3)『心の流浪　挿絵画家・樺島勝一』2376円・弦書房　(4)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社　(5)『視覚シンボルで楽々コミュニケーション』1620円・エンパワメント研究所　(6)『写真帖　追憶の仙台』1944円・無明舎出版　(7)『デザインマンホール１００選』1836円・アットワークス　(8)『小笠原諸島をめぐる世界史』2160円・弦書房　(9)『新装版　お話のリスト』1296円・東京子ども図書館　(10)『戦争していた国のおらが里』4104円・桂書房　(11)『世界へはばたけ！富岡製糸場』864円・上毛新聞社　(12)『トンボのすべて　フィールド版』1620円・トンボ出版　(13)『解説　出雲国風土記』2000円・今井出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『本屋の雑誌』2138円・本の雑誌社　(2)『東京かわら版　６月号』432円・東京かわら版　(3)『昭和プロレスマガジン　３２』1000円・昭和プロレス研究室　(4)『伝説の西鉄ライオンズ』1728円・海鳥社　(5)『東丹沢登山詳細図　大山・塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳　全１１０コース』925円・吉備人出版　(6)『戦国法の読み方』2700円・高志書院　(7)『解説　出雲国風土記』2000円・今井出版　(8)『実戦に強くなる　ガチンコ詰将棋』1188円・双峰社　(9)『奥多摩東部登山詳細図　全８８コース』823円・吉備人出版　(10)『北京食堂の夕暮れ』1944円・本の雑誌社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『ペコロスの母に会いに行く』1296円・西日本新聞社　(2)『柳原白蓮』1620円・西日本新聞社　(3)『ラストハンター』1944円・鉱脈社　(4)『解説　出雲国風土記』2000円・今井出版　(5)『おばぁタイムス』648円・沖縄タイムス社　(6)『カタカムナへの道』3564円・Ｅｃｏクリエイティブ　(7)『動物園のなにげない一日』864円・創風社出版　(8)『富岡製糸場事典』1620円・上毛新聞社　(9)『憲法を求める沖縄　捨てる日本』1620円・ゆい出版　(10)『フィールドで使える　図説　植物検索ハンドブック［埼玉２８２４種類］』2916円・さきたま出版会　(11)『源氏物語　革新的現代語訳　巻１』1080円・教育出版センター　(12)『写真集　島の美容室』1944円・ボーダーインク

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼…当社の場合、今月（６月）の出版社への支払が、消費税５％と８％が混ざって支払う月にあたり、５％消費税仕入分（３月末まで）と８％消費税仕入分（４月１日以降）を明記した特別の支払い明細書を作って送りましたが、間違いがないか心配です。消費税対応のため支払送金システムが混乱して送金が遅れた取引先や、５％消費税分の支払いが抜けてしまったところなどがありましたので神経を使います。
[地方・小出版流通センター通信 No.1326 2014/06/12] より。

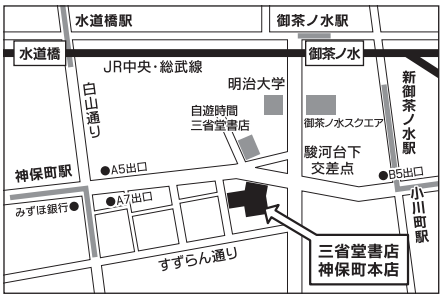
▼全国新聞社出版協議会主催の**「全国ふるさとブックフェア」**が各地で開催中です。６月16日～７月７日まで仙台の丸善仙台アエル店にて。６月13日～７月13日まで豊橋の精文館書店本店にて。また７月18日～９月18日、平安堂長野店で開催予定です。

▼高視聴率を記録しているというNHK連続テレビ小説「花子とアン」に登場する炭坑王、嘉納伝助のモデルといわれる人物の評伝が発売中です。**【筑豊一代　炭坑王　伊藤傳右衛門】**書肆侃侃房刊1800円税別。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。